

2021年度アーリーバードプラスプログラム 2学期コース

「アーリーバードプラス」とは英国自閉症協会が開発した、自閉症のお子さんをもつ保護者とそのお子さんに関わる支援者をサポートするプログラムです。私たち TOMO はうすはライセンスを取得し、このプログラムを実施できる日本で2番目の団体となりました。2019年度からトレーニングを開始し、参加者の皆様から高い評価（下記感想参照）を得ています。またトレーニング終了後も参加者の交流が続き、支え励まし合う仲間の輪が広がっています。今年度も下記日程で開催いたします。たくさんの皆様の参加をお待ちしています。

【募集内容】 ※プログラム内容の詳細は別刷りのリーフレットをご参照ください。

- ☆対象者：（原則として）自閉症のお子さん（4～8歳）をもつ保護者（1～2名）とそのお子さんの支援専門家（1名）6組
- ☆日程：インフォメーションミーティング 9/18（土）（参加希望者への説明会）
 ①10/9 ②10/16③10/23 家庭訪問A 10/30or10/31 ④11/6 ⑤11/13 ⑥11/20
 家庭訪問B：11/27or28 ⑦12/4 ⑧12/18 フォローアップミーティング 3/5
- ☆時間：毎週土曜日午前9：30～12：00
- ☆場所：高知市保健福祉センター（予定）（〒780-0065 高知市塩田町18-10 TEL088-823-9111）
- ☆参加費：保護者…13,000円/家族（別途テキスト代4,000円）
 支援専門家…会費（TOMO はうす年会費）2,000円（別途テキスト代4,000円）

【これまでの参加者のみなさんの感想】

【自閉症について何を学びましたか】

- ☆独自の世界があること。視覚が強いこと、言葉は忘れてしまったり子どもの中には入りにくいこと、事前準備をしたり視覚支援カード使ったりすることで、かんしゃく、パニック等が少なくなり、理解が得やすいことを学びました。冰山モデルの下のところを考えていこうと思います。（4歳児母）
- ☆行動には理由がある、ということや感覚過敏の強い特性など、何となく分かったり感じたりしていたことがよく分かりました。このプログラムを実施していけば、親も子も幸せになると思います。（小学校教員）



【コミュニケーションについて何を学びましたか】

- ☆子どもの困った行動の裏には理由があり、それを状況や環境を観察したり考えたりして見つけ出すことができれば、対応策も見えてくる。子どもを変えようとしても無理なので、まず自分の行動を変えなければいけないということ、親が意識して接し方を考える、行動することで子どもの問題行動は変わる可能性があるということ学んだ。（5歳児母）
- ☆言葉を減らしたり、アイコンタクトをとったり、分かりやすく「おしまい」を使うことで、自閉症の人は理解しやすい、と知った。PECSを使うことで、子どもの要求が目に見えて分かりやすくなり関わりが増えた。コミュニケーションについても、冰山モデルを使って、「なに」と「なぜ」を考えていくことが大切だと学んだ。（保育士）
- ☆まずは自分の息子に対してのコミュニケーションのとりかたについて。自分ではコミュニケーションをとっているつもりでも息子にとってはそうではないのでは、という「気づき」になりました。→自分が変われば息子も変わる、ということは今、日々、感じています。（小学3年生母）

【セッションや家庭訪問について】

- ☆セッションでは、自分の意見を言うのが恥ずかしかったり、難しい所もあったりしましたが、年齢の違うお子さんの話も聞けて、未来への対応策を考えていけました。また家庭訪問では、先生たちとゆっくりお話ができたり、視覚支援グッズが作りかけてもそれを評価してもらったりして、すごく嬉しかったです。講義自体もすごく楽しくてあっという間の3か月でした。ありがとうございました。(4歳児母)
- ☆以前は自閉症に対してネガティブなイメージだったが、彼らの考え方などが少し分かるようになってからは1つの個性としてすんなり受け入れられた。(小学3年生父)



【他の両親や専門家の人たちにこのプログラムをどのように伝えようと思いますか】

- ☆このプログラムは、よく聞くようなプログラムとは違って、毎回楽しく、楽しみで向かうことができる。しないといけない…ではなく、ストレスがなく、したくなる！やってみよう！と思えるもので、この短期間で我が子の変化、自分自身の変化が感じられる。何よりも今感じている孤独感や辛い思い、しんどさが絶対に軽くなる、ということ伝えたい。(5歳児母)
- ☆自閉症の子どもたちがどのようなことで困るのがよく分かりました。その結果、自分の仕事の負担が減り、楽しく仕事ができます。(小学校教員)
- ☆保護者と支援者が一緒に参加するというのがすごく良かったと思います。チーム支援ができる第一歩です！(小学校教員)

【参考資料：2019年新聞記事】

高知新聞 2019年(平成31年)2月20日(水曜日) 社会2 (36)

自閉症児の親ら支援へ

いの町の元教員ら 英資格取得し開講



高知市「ソレ」来月2日に説明会

自閉症の子どもの家族や教員ら支援者を支える、イギリス自閉症協会のプログラム「アーリーバードプラス」を吾川郡いの町の元教員、久武夕希子さん(62)ら県内在住の4人が取得した。家族らが集まって子どもの行動を分析し、よりよいコミュニケーション方法などに気付く約3カ月のプログラムで、今春から高知市で進めていく。

「アーリー」は同進行役となる。協会が15年以上前に開発したプログラム。基盤の支援方法など本的に4〜9歳の家で、計8回、また期間族2人と支援者1人が、中2回の家庭訪問や、1チームとなり、3〜終了3カ月後のフォロー6チームで2時間半グループセッションを行う。家族の孤立感解消。資格を取得した4消、ほかの家族や支援者がこのセッションの者との関係の緊密化。昨秋、外部講師として

高知市「ソレ」は同進行役となる。協会が15年以上前に開発したプログラム。基盤の支援方法など本的に4〜9歳の家で、計8回、また期間族2人と支援者1人が、中2回の家庭訪問や、1チームとなり、3〜終了3カ月後のフォロー6チームで2時間半グループセッションを行う。家族の孤立感解消。資格を取得した4消、ほかの家族や支援者がこのセッションの者との関係の緊密化。昨秋、外部講師として

久武さんは高知大付属特別支援学校などで勤務し、2012年、自宅を事務局に発達障害児・者とその家族らを支援する団体「TOMOHOUSE」を設立。MOは「す」を設立。MOは「す」を設立。MOは「す」を設立。

「世界では約1000万人が取得。日本では東京都の児童精神科診療所が持っているだけで、久武さんが2団体目になる。

教員時代から行動分析や、取るべき行動を絵で示す「視覚支援」などを学んできた久武さん。事前に「このプログラムは家族を元気にする」と聞いていたのが、取得の動機。さらに現地で「教え込まないこと、家族がこれならできそう、できた」と実感できることが「大切」と言われ、衝撃を受けた。高知でもそんなプログラムを広めていけたら」と話している。

プログラムは5月11日からスタート。その前に無料説明会を3月2日午前9時半から11時まで、高知市旭町3丁目の男女共同参画センター「ソレ」で開く。定員50人。

申し込み、問い合わせは久武さん(電話090-7786-7472、またはメールtomohouse2012@gmail.com)へ。

【申し込み方法：メール (tomohouse2012@gmail.com 久武まで)】

- ① 件名「2021年度EBP」参加申し込み ②氏名 ③保護者・専門家どちらか記入
- ④所属(専門家の方) ⑤すぐに連絡できるメールアドレス ⑥すぐに連絡できる携帯電話番号
- ⑦保護者の方：一緒に参加できる専門家がおいでする場合その方のお名前
- ⑧支援する専門家の方：一緒に参加する保護者のお名前 ⑨お子さんの年齢〇歳〇か月

※お問い合わせおよび申し込みされてから3日たっても返信がない場合、お手数をおかけしますが久武携帯 090-7786-7472 まで連絡をお願いします。